



その先の、道へ。北海道  
Hokkaido, Expanding Horizons.

平成 30 年度  
**北海道原子力防災訓練  
実施結果報告書**

平成 31 年 3 月

北海道・泊村・共和町・岩内町・神恵内村・  
寿都町・蘭越町・二セコ町・倶知安町・  
積丹町・古平町・仁木町・余市町・赤井川村

## はじめに

北海道原子力防災訓練は、北海道防災会議が策定した「北海道地域防災計画（原子力防災計画編）」、泊村、共和町、岩内町、神恵内村で組織する泊発電所原子力防災会議協議会が策定した「泊発電所周辺地域原子力防災計画」及び寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村が策定した「地域防災計画（原子力防災計画編）」、「泊地域の緊急時対応（国、道及び関係町村の原子力災害対策を一体的に取りまとめたもの）」に基づき、住民避難訓練や災害対策本部の設置運営訓練などを組み合わせて総合的に実施する訓練（以下、「総合訓練」という。）や、要素ごとに実施する訓練（以下、「要素訓練」という。）により構成され、昭和63年度以降、毎年度実施している。

今年度の総合訓練は、10月に台風との複合災害を想定し、意思決定訓練と実動訓練を連動させ、1日間の日程で実施した。意思決定訓練では、オフサイトセンターに国や道などの防災関係機関の要員が参集し、複合災害時における住民の防護措置の実施方針の調整手順を確認した。実動訓練では、この実施方針に基づき、PAZとUPZの区分に応じた段階的な住民避難に加え、孤立集落を想定した陸路・海路・空路を用いた住民避難を実施したほか、台風被害に伴う避難所の開設・運営や、外国人観光客の宿泊施設からの避難誘導、避難退域時検査などの原子力災害医療活動訓練に取り組んだ。

さらには、積雪寒冷の気候にある地域特性も踏まえ、平成31年2月に冬季要素訓練として、初動対応の確認や様々な事態に即応できる要員の対応能力の向上を図るため、ブラインド方式による意思決定訓練を実施した。

また、要素訓練では、関係町村・関係機関に設置されている「原子力防災ネットワーク専用回線」を使用した通信連絡訓練や緊急時環境放射線モニタリング訓練などを通じて防災業務関係者の技術向上に取り組んだ。

本報告書は、訓練の記録として取りまとめたほか、訓練終了後に関係機関等に行った事後調査等を基に得られた課題等を整理し、次年度以降の訓練に資するものである。



# 目 次

## 第1 総合訓練

1	目 的	1
2	実施日時	1
3	主 催	1
4	場 所	1
5	対象施設	1
6	参加・協力機関	1
7	訓練想定	5
8	訓練内容	7
9	訓練の流れ	14
10	訓練イベント時刻	15
11	住民避難訓練整理表	17
12	訓練実施場所図	18
13	事前準備・結果報告等	19

## 第2 冬季要素訓練

1	目 的	21
2	実施日時	21
3	主 催	21
4	場 所	21
5	対象施設	21
6	参加・協力機関	21
7	訓練想定	21
8	訓練内容	21
9	訓練の流れ	25

## 第3 課題等整理表（関係機関等事後調査結果）

26

## 第4 要素訓練

1	通信連絡訓練	37
2	原子力災害対策本部及びオフサイトセンター訓練（図上演習）	37
3	緊急時環境放射線モニタリング訓練	38
4	原子力災害医療研修会	38
5	その他研修	39
6	地域学習会	39

**<参 考>**

■ 北海道原子力防災訓練の実施状況（昭和63年度～平成30年度） . . . . .	43
■ 訓練参加住民アンケート調査結果 . . . . .	56
■ 平成30年度北海道原子力防災訓練リーフレット . . . . .	61
■ 泊地域の緊急時対応（概要版） . . . . .	63
■ 緊急時における防護措置の概要 . . . . .	69

# 第1 総合訓練

## 1 目的

防災関係機関が協力して原子力防災対策を円滑に実施できるよう、関係機関の連携、防災業務関係者の防災技術の向上を図るとともに、地域住民の防災意識の高揚や、防災対策に関する理解促進を図る。

## 2 実施日時

平成30年10月22日(月) 9:00~15:30

## 3 主催

北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村

## 4 場所 [実動訓練場所]

泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、黒松内町、留寿都村、小樽市、洞爺湖町、札幌市、登別市

## 5 対象施設

北海道電力株式会社 泊発電所(3号機)

## 6 参加・協力機関

防災関係機関等 390機関(防災業務関係者 3,365人)

### (1) 北海道警察 … <1>

(警察本部、函館方面本部、札幌方面岩内警察署、札幌方面余市警察署、札幌方面倶知安警察署、札幌方面南警察署、札幌方面白石警察署、札幌方面手稲警察署、札幌方面伊達警察署、函館方面寿都警察署、情報通信部)

### (2) 北海道教育委員会 … <1>

(北海道教育庁、後志教育局)

### (3) 市町村 … <23>

札幌市、小樽市、島牧村、黒松内町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、千歳市、北広島市、江別市、洞爺湖町、豊浦町、伊達市、室蘭市、苫小牧市、登別市、壮瞥町、白老町、むかわ町、安平町、厚真町、長万部町

### (4) 消防機関 … <3>

岩内・寿都地方消防組合(消防本部、岩内消防署、泊支署、共和支署、神恵内支署、寿都支署)  
北後志消防組合(消防本部、余市消防署、古平支署、積丹支署、仁木支署、赤井川支署)  
羊蹄山ろく消防組合(消防本部、倶知安消防署、蘭越支署、二セコ支署)

- (5) 関係省庁 … <3>  
原子力規制委員会原子力規制庁、泊原子力規制事務所、内閣府
- (6) 指定地方行政機関 … <7>  
北海道総合通信局、経済産業省北海道経済産業局、国土交通省北海道開発局、国土交通省北海道運輸局、気象庁札幌管区気象台、海上保安庁第一管区海上保安本部、環境省北海道地方環境事務所
- (7) 自衛隊 … <3>  
陸上自衛隊北部方面隊、海上自衛隊大湊地方隊、航空自衛隊北部航空方面隊
- (8) 指定公共機関 … <4>  
(国研) 日本原子力研究開発機構、(株) NTTドコモ北海道支社、KDDI (株) 北海道総支社、ソフトバンク (株)
- (9) 指定地方公共機関 … <5>  
(一社) 北海道薬剤師会、(公社)北海道トラック協会、(一社)北海道バス協会、(一社)北海道建設業協会、(一社)北海道警備業協会
- (10) 公共的団体等 … <8>  
古宇郡漁業協同組合、岩内郡漁業協同組合、寿都町漁業協同組合、東しゃこたん漁業協同組合、余市郡漁業協同組合、きょうわ農業協同組合、余市町農業協同組合、新おたる農業協同組合
- (11) 協力企業等 … <7>  
東芝ITサービス(株)、小樽建設協会、(一社)札幌地区トラック協会、(株)日立製作所ヘルスケア札幌第一営業所、イオン北海道(株)、パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株)、北陽警備保障(株)
- (12) 原子力事業者 … <1>  
北海道電力(株)(本店、泊発電所)
- (13) 医療機関 … <12>  
北海道大学病院、旭川医科大学病院、札幌医科大学附属病院、旭川赤十字病院、伊達赤十字病院、(一社)北海道放射線技師会、北海道社会事業協会岩内病院、小樽市立病院、北海道社会事業協会余市病院、弘前大学、J A北海道厚生連俱知安厚生病院
- (14) 学校・幼稚園・児童福祉施設 … <107>  
【泊村】泊村立泊小学校、泊村立泊中学校、とまり保育所【共和町】共和町立南幼稚園、共和町立中央保育所、共和町立北幼稚園、共和町立へき地保育所、共和町立東陽小学校、共和町立北辰小学校、共和町立西陵小学校、共和町立共和中学校、北海道共和高等学校【岩内町】高田幼稚園、岩内幼稚園、岩内町立岩内東小学校、岩内町立岩内西小学校、岩内町立岩内第一中学校、岩内町立岩内第二中学校、北海道岩内高等学校、岩内町東山保育所、岩内町中央保育所、岩内町西保育所、岩内厚生園、児童デイサービスチャレンジキッズどんぐり、ファミリーホームろっく、【神恵内村】神恵内村立神恵内小学校、神恵内村立神恵内中学校、神恵内村立神恵内保育所、【寿都町】寿都町立寿都小学校、寿都町立潮路小学校、寿都町立寿都中学校、北海道寿都高等学校、寿都保育園、歌棄洗心学園、【蘭越町】蘭越ひばり幼稚園、蘭越町立蘭越小学校、蘭越町立昆布小学校、蘭越町立蘭越中学校、北海道蘭越高等学校、蘭越保育所、北海愛星学園、昆布保育所、【二セコ町】二セコ町幼児センター、二セコ町立二セコ小学校、二セコ町立近藤小学校、二セコ町立二セコ中学校、二セコ町立北海道二セコ高等学校、北海道インターナショナルスクール二セコ校、【俱知安町】俱知安

幼稚園、倶知安藤幼稚園、倶知安めぐみ幼稚園、倶知安町立倶知安小学校、倶知安町立西小学校、倶知安町立西小学校樺山分校、倶知安町立北陽小学校、倶知安町立東小学校、倶知安町立倶知安中学校、北海道倶知安高等学校、北海道倶知安農業高校、くっちゃん保育所ぬくぬく、リトル・ナーサリー・スクールCLAIR、なかよし子供館、児童チャレンジサポートさやえんどう、羊蹄山ろく発達支援センター、倶知安町立北児童館、倶知安町立南児童館、【積丹町】積丹町立美国小学校、積丹町立日司小学校、積丹町立野塚小学校、積丹町立余別小学校、積丹町立美国中学校、積丹町立びくに保育所、みなと保育所、【古平町】古平町立古平小学校、古平町立古平中学校、認定こども園ふるびら幼児センターみらい、児童デイ多機能型事業所ひまわりくらぶ、【仁木町】仁木町立銀山小学校、仁木町立仁木小学校、仁木町立銀山中学校、仁木町立仁木中学校、北海道芸術高等学校仁木本校、にき保育園、櫻ヶ丘学園、大江へき地保育所、銀山へき地保育所、【余市町】余市町立登小学校、余市町立黒川小学校、余市町立大川小学校、余市町立沢町小学校、余市町立東中学校、余市町立旭中学校、余市町立西中学校、北海道余市養護学校、北海道余市紅志高等学校、北星学園余市高等学校、学校法人北海道キリスト教学園リタ幼稚園、北後志母子通園センター、余市町立中央保育所、余市町立大川保育所、(福)徳風会ほうりゅうじ保育園、黒川児童館、地域小規模児童養護施設さくら、【赤井川村】赤井川村立赤井川小学校、赤井川村立赤井川中学校、赤井川村立赤井川へき地保育所

(15) 病院・社会福祉施設 … <114>

【泊村】泊村養護老人ホームむつみ荘、泊村特別養護老人ホームむつみ荘、【共和町】地域活動支援センター前田の家、共和町いきいきセンター、共和町特別養護老人ホームみのりの里共和、デイサービスセンターみのりの里共和、【岩内町】医療法人岩内大浜医院、岩内あけぼの学園、ベーカーリーサンライズ、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷、介護老人保健施設コミュニティホーム岩内、岩内町デイサービスセンター、グループホーム「そよかぜ」岩内、介護付有料老人ホーム七福神恵比寿館、【神恵内村】神恵内村立神恵内診療所、神恵内村高齢者グループホーム「かもめの家」、神恵内村老人福祉寮「生き活きホーム998」、神恵内村高齢者共同生活支援施設「友遊館」、神恵内ハイツ998、創生会デイサービスセンター、【寿都町】寿都町立寿都診療所、歌棄慈光園、ワークランド歌棄、はまなす寮、寿都しおさい学園、寿都浄恩学園、寿都寿海荘、寿都デイサービスセンター、【蘭越町】医療法人社団静和会昆布温泉病院、蘭越診療所、蘭越町立昆布診療所、特別養護老人ホーム一灯園、高齢者グループホームらんこし、蘭越町通所介護事業所こんぶ、蘭越町通所介護事業所、高齢者生活福祉センターこんぶ、高齢者生活福祉センターめな、【ニセコ町】医療法人ニセコ医院、特定非営利活動法人ニセコ生活の家、特別養護老人ホームニセコハイツ、(福)ニセコ福祉社会ニセコ町デイサービスセンター、(福)ニセコ福祉社会ニセコ町グループホームきら里、【倶知安町】障がい者就労支援施設羊蹄セルフ、いきるよろこび「うたり」、人と人をつなぐ陽だまり、グループホームそら、グループホームかぜ、グループホームゆめ、福祉ホーム羊蹄、共同生活援助事業あゆ〜む、障がい者就労支援事業所ワークショップようてい、グループホームよろこび(グループホームえがお、グループホームここに、グループホームふじ、グループホームしずく、グループホームつばさ)、ワークステーション輝、夢のたくみ、羊蹄ハイツ、デイサービスセンター羊蹄ハイツ、介護老人保健施設麓華苑、グループホーム羊蹄、認知症対応型共同生活介護縁、認知症対応型共同生活介護絆、デイサービスろっかえん、倶知安町老人デイサービスセンター、リハビリ特化型サービスカラダラボ、【積丹町】積丹町立国民健康保険診療所、積丹町エイジングステーションやすらぎ、【古平町】共働の家、みっくすベジタ、きょうどう、地域生活総合支援センターいこいの家、若者宿、つどい、古平町高齢者生活支援センター元気プラザ、古平町デイサービスセンター、夕凧、朝凧、デイサービスセンターのどか、グットケア、ほほえみくらす、古平町立診療所海のまぢクリニック、【仁木町】医療法人社団森内科胃腸科医院、(福)後志報恩会銀山学園、(福)後志報恩会大江学園、(福)後志報恩会えんれいそう、(福)後志報恩会陽だまり、(福)後志報恩会ふきのとう、あんごの森「銀山」、回復の森「銀山」、(福)仁木福祉社会グループホーム仁木やすらぎの里、(福)仁木福祉社会デイサービス仁木やすらぎの里、(福)仁木福祉社会仁木長寿園、【余市町】余市幸住学園、余市豊浜学園、社会福祉法人恵盛会希望の家余市作業所、サポートセンターたね、介護老人保健施設よいち、グループホームポランの家、デイサービスまごころ、グループホーム夢、リハビリ特化型デイサービスカラダラボ余市、デイサービスオレンジ、養護老人ホームかるな和順、グループホーム美優さくらんぼ、勤医協有料老人ホームにれの木、

(福) よいち福祉会フルーツ・シャトーよいち、介護療養型老人保健施設なかじま、中島内科、【赤井川村】グループホームあまらんす、グループホームあまらんす2号館、赤井川村デイサービスセンター、【黒松内町】社会福祉法人黒松内つくし園本部、湯の里・黒松内、【札幌市】社会福祉法人北翔会札幌すぎな園、社会福祉法人ノマド福祉会特別養護老人ホームはっさむはる、【北広島市】社会福祉法人北海長正会北広島リハビリセンター

(16) その他機関 … <76>

【泊村】泊村社会福祉協議会、泊村商工会、平安荘、【共和町】共和町農業開発センター、共和町学校給食センター、西村計雄記念美術館、共和町かかし古里館、共和町社会福祉協議会、共和町商工会、ワイス温泉、【岩内町】岩内地域人材開発センター、(株)いわない高原ホテル、ホテルグリーンパークいわない、いわない温泉高島旅館、いわない温泉おかえりなさい、ホテルいろう、岩内マリンホテル、ホテルENVY、ホテルENVY(新館)、岩内町老人福祉センター、働く婦人の家、岩内商工会議所、【神恵内村】神恵内村商工会、旅館恵比須屋、民宿きのえ荘、【寿都町】(株)寿都振興公社、港前庵、ペンションMellow、【蘭越町】蘭越町交流促進センター幽泉閣、蘭越町交流促進センター雪秩父、【ニセコ町】ニセコ町社会福祉協議会、(株)ニセコリゾート観光協会(ラジオニセコ)、ヒルトンニセコビレッジ、ニセコアンヌプリ温泉湯心亭、ワン・ニセコ・リゾートタワーズ、ホテル甘露の森、いこいの湯宿いろは、ニセコノーザンリゾート・アンヌプリ、ザ・ロッジ・モイワ834、鶴ヶ別荘 空の抄、ニセコグランドホテル、ザ・グリーンリーフ・ニセコビレッジ、ニセコ町赤十字奉仕団、【倶知安町】倶知安観光協会、ホテルニセコアルペン、ニセココテージアカゲラ、ペンションアリス、ペンション浦中、ペンショングランパピ、ロッジコロポックル、ニセコパークホテル、白雲荘、ペンションまろうど、【古平町】古平町商工会、日本海ふるびら温泉しおかぜ、古平家族旅行村、(福)古平町社会福祉協議会、(福)古平福祉会、【仁木町】(福)仁木町社会福祉協議会、仁木町商工会、イナホ観光(株)、(有)五共ハイヤー、NPO法人銀山さわやか福祉NPO、仁木町観光協会、【余市町】一般社団法人余市観光協会、ニッカウヰスキー(株)北海道工場、ゲストハウス余市、余市商工会議所、かくと徳島屋旅館、【赤井川村】(株)キコロアソシエイツ、【札幌市】アパホテル&リゾート(札幌)、(公社)北海道国際交流・協力総合センター、(公財)札幌国際プラザ、【留寿都村】ルスツリゾート、【洞爺湖町】洞爺湖文化センター、【登別市】登別市総合体育館



## 7 訓練想定

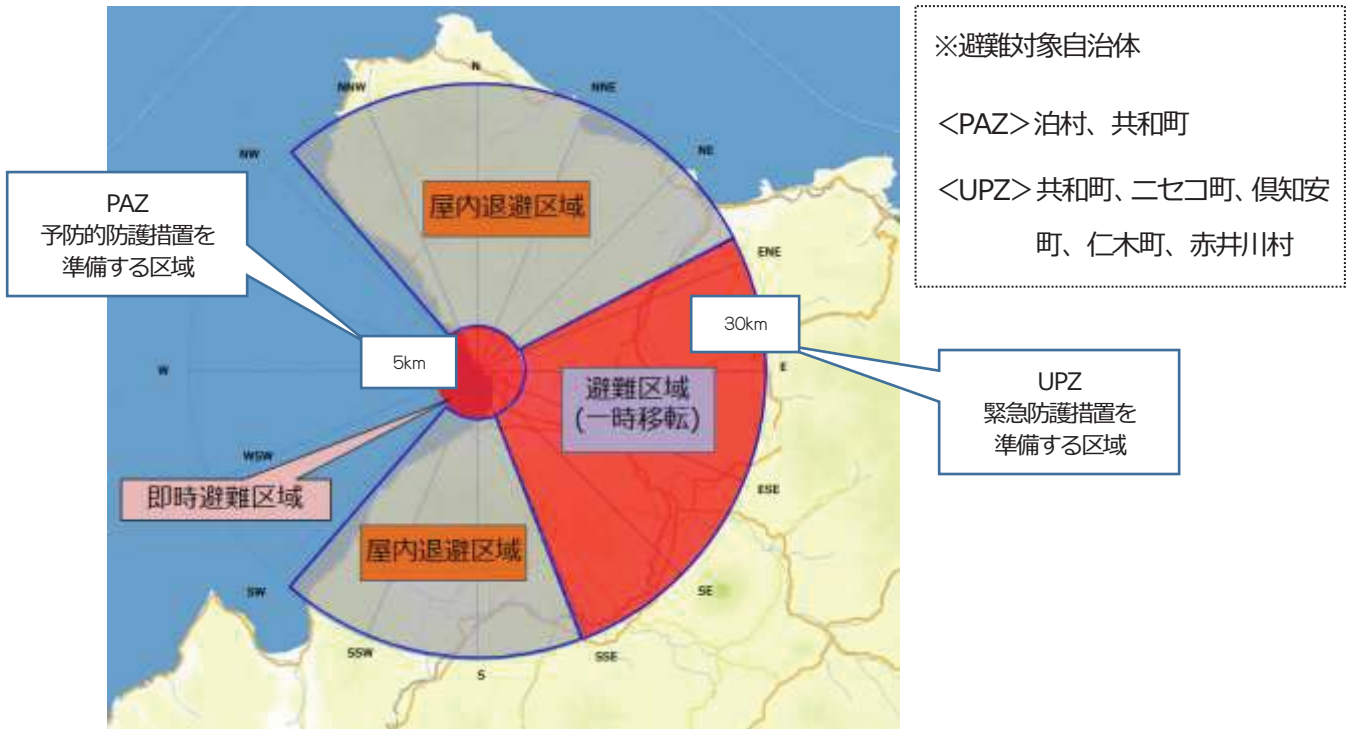
後志地方に台風が接近し上陸する中、北海道電力株式会社泊発電所3号機において、定格熱出力一定運転中、原子炉冷却材漏えいが発生し、原子炉が自動停止に至る。

その後、非常用炉心冷却設備が作動するが、何らかの設備故障等により同設備による注水が不能となり、全面緊急事態となる。さらに事態が進展し、炉心損傷に至り、放射性物質が放出され、その影響が発電所周辺地域に及ぶ。

時刻	事態	事故	要請・指示	対象自治体
訓練前日～	※後志地方に、大型台風が上陸			
4:45	(大雨・暴風警報発表中)	泊発電所3号機の定格熱出力一定運転中(1・2号機は停止中)に、冷却材漏えいの確認。		
5:00	EAL(AL)〔警戒事態〕発生連絡	一次冷却材の漏えい量が増加し、原子炉自動停止。その後、原子炉圧力低下による非常用炉心冷却設備の作動。	PAZ要避難者の避難準備	PAZ(泊村・共和町)
6:00 ※想定	EAL(SE)〔施設敷地緊急事態〕原災法第10条事象の発生通報	何らかの設備故障等により、非常用炉心冷却設備による原子炉への注水が一部不能。	PAZ要避難者の避難 PAZ住民の避難準備 ※大雨・暴風警報発表中は、屋内退避を継続し、避難は天候や避難経路等を確認の上、実施する。	PAZ(泊村・共和町)
9:00 訓練開始				
9:20	※大雨・暴風警報解除		PAZ要避難者の避難開始	PAZ(泊村・共和町)
10:00	EAL(GE)〔全面緊急事態〕原災法第15条事象の発生通報 →原子力緊急事態宣言発出	さらなる設備故障により、非常用炉心冷却設備による注水不能。	PAZ住民の避難 UPZ住民の屋内退避	PAZ(泊村・共和町) UPZ(関係13町村)
11:15	炉心損傷(放射性物質放出)の連絡	代替設備による原子炉への注水ができず炉心損傷となり、放射性物質が放出。		
<b>11:20時点で時間をスキップ(放射性物質放出からOIL2超過区域の特定まで) (格納容器自然対流冷却により圧力が低下し、放射性物質の放出停止)</b>				
11:30			UPZ一部区域(OIL2超過区域)住民の一時移転	UPZ(共和町、二七二町、倶知安町、仁木町、赤井川村)
14:50	事態収束(原子炉への注水開始)の連絡	故障していた機器の復旧により、原子炉への注水を開始し、事態収束の方向。		
15:30 訓練終了				

\*原子力発電所では、事故発生に備え、何重もの安全装置が設置されています。今回は住民の避難訓練等を実施するため、何らかの理由でこれら安全装置が故障等により正常に作動しない事態を想定しました。

<防護対策区域>



<被害想定>

10/21 台風により八雲町、今金町で土砂災害被害発生、共和町、二セコ町で土砂崩れにより道路通行止め発生  
 10/23 前線の影響により、せたな町(後志利別川)、長万部町(長万部川)、仁木町(余市川)で洪水発生



## 8 訓練内容

### (1) 重点活動項目

次に掲げる事項を重点活動項目として、災害対策本部の設置運営訓練及び住民避難訓練などの要素訓練を組み合わせた総合訓練を実施した。

#### <重点活動項目>

- ◆緊急事態応急対策等拠点施設（OFC）運営訓練
  - ・各機能班を設置し、事故の状況や防災関係機関の対応状況を収集・整理
  - ・スクリーン表示するなど各機能班相互の情報共有
  - ・複合災害を想定した防災関係機関との対応の調整
- ◆住民避難訓練
  - ・バス避難のための集合場所の開設
  - ・避難受入先自治体の協力による一時滞在場所の設置・運営
  - ・自宅での屋内退避が困難な場合を想定した屋内退避・避難
  - ・孤立集落の発生を想定した多様な手段による避難
  - ・観光客（外国人を含む）に対する情報提供や避難誘導
- ◆緊急時環境放射線モニタリング訓練
  - ・EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携
  - ・緊急時モニタリング実施内容の検討（実施計画案の修正）、指示及び情報伝達
- ◆原子力災害医療活動訓練
  - ・安定ヨウ素剤の緊急配布
  - ・避難先地域時検査場所の開設と運営

### (2) 各要素訓練

訓練項目ごとに主要活動項目を設定し、その活動に必要な対応動作や手順の確認を行った。

#### ア 災害対策本部等設置運営訓練

道及び泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村（以下「関係13町村」という。）は、災害対策本部を設置し、事態の推移に応じて本部員会議やTV会議を開催し、本部内や防災関係機関と情報共有を図った。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道 北海道教育委員会 北海道警察本部	<本庁> <input type="checkbox"/> 道災害対策本部を設置・運営 <input type="checkbox"/> 道本部員会議を開催 <input type="checkbox"/> TV会議を開催 [道庁-OFC-関係13町村] <OFC> <input type="checkbox"/> 道現地災害対策本部を設置・運営
関 係 1 3 町 村	<input type="checkbox"/> 各町村に災害対策本部を設置・運営 <input type="checkbox"/> TV会議を開催 [道庁-OFC-関係13町村]
原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 本店及び泊発電所に原子力災害対策本部を設置・運営



<道災害対策本部>



<泊村災害対策本部>



<共和町災害対策本部>

## イ 緊急事態応急対策等拠点施設 (OFC) 運営訓練

OFCに、国、道、関係13町村及び防災関係機関から、あらかじめ定められた要員が参集し、体制を構築して、事故の状況や防災関係機関の対応状況を把握しながら、必要な情報共有と複合災害（大雨・暴風）における防護措置の実施方針の調整・確認を行った。

機 関	主 要 活 動 項 目
内 閣 府 原 子 力 規 制 庁 泊 原 子 力 規 制 事 務 所 北 海 道 関 係 1 3 町 村 防 災 関 係 機 関 原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 各機能班を設置し、事故の状況や防災関係機関の対応状況を収集・整理 <input type="checkbox"/> スクリーン表示するなど各機能班相互の情報共有 <input type="checkbox"/> 複合災害を想定した防災関係機関との対応の調整 <input type="checkbox"/> 現地事故対策連絡会議（EAL(SE)段階）や原子力災害合同対策協議会（EAL(GE)段階）を開催 <input type="checkbox"/> TV会議を開催〔ERC（官邸）－道庁－OFC－関係13町村〕し、防護措置の実施方針を確認・調整 <input type="checkbox"/> ヘリからの映像伝送による情報収集



<合同対策協議会全体会議>



<機能班の活動>



<TV会議による情報共有>

## ウ 緊急時通信連絡訓練

各種通信手段を用いた事故状況や対応状況等に関する防災関係機関相互の通報連絡及び関係機関への情報伝達を実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
全 機 関	<input type="checkbox"/> 電話及びFAX（一般回線や専用回線）、防災行政無線を用いた防災関係機関相互の通報連絡 <input type="checkbox"/> 関係13町村の要配慮者施設（学校・医療機関・社会福祉施設等）や宿泊施設に対する情報伝達 <input type="checkbox"/> 避難先自治体等への事故状況の伝達や避難受入要請



<情報伝達内容の整理>

## エ 緊急時環境放射線モニタリング訓練

国の統括のもと、OFC内に緊急時モニタリングセンター（EMC）を設置し、国、道、関係13町村、原子力事業者、関係指定公共機関と連携して、緊急時における環境放射線のモニタリング活動をした。

機 関	主 要 活 動 項 目
原子力規制庁 泊原子力規制事務所 北海道 関係13町村 原子力事業者 指定公共機関	<input type="checkbox"/> EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング実施内容の検討（実施計画案の修正）、指示及び情報伝達 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング情報共有システム等によるモニタリング情報の収集、整理、確認及び報告 <input type="checkbox"/> OFC放射線班等への緊急時モニタリング結果の提供及び情報共有 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング要員等の被ばく管理



<EMCの活動>



<可搬型モニタリングポストの設置>



<非常用発電機による電源の確保>

## オ 広報訓練

関係13町村の住民等に対し、防災行政無線や広報車等による広報のほか、緊急速報メールなど多様な手段を活用した広報を実施するとともに、事故状況や防護措置等に関する報道提供資料を作成した。

機 関	主 要 活 動 項 目
北海道 関係13町村 防災関係機関	<input type="checkbox"/> 防災行政無線や広報車、コミュニティFMなどによる住民広報 <input type="checkbox"/> 緊急速報メールを活用し、多言語による避難指示等を配信 <input type="checkbox"/> 道ホームページを利用した情報発信



<広報車による広報>



<コミュニティFMによる広報>



<OFC 広報班の活動>

## カ 住民避難訓練

EAL、OILの判断基準を基本として、様々な事態（大雨・暴風との複合災害）を想定し、防災関係機関と連携しながら、各町村の避難計画を反映して取りまとめた防護措置の実施方針に基づき、住民等の安全確保を優先して屋内避難や避難等の防護措置を段階的に実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道 関 係 1 3 町 村 防 災 関 係 機 関	<input type="checkbox"/> バス避難のための集合場所の開設（レイアウト図の掲示） <input type="checkbox"/> バス等を利用した避難（避難経路上に休憩施設の開設） <input type="checkbox"/> 小中学校、高等学校などによる屋内退避・避難 <input type="checkbox"/> 要配慮者（社会福祉施設入所者など）の屋内退避・避難 <input type="checkbox"/> 放射線防護施設における屋内退避・出入管理 <input type="checkbox"/> 避難受入自治体の協力による一時滞在場所の設置・運営 <input type="checkbox"/> 大雨・暴風により自宅での屋内退避が困難となった場合を想定した屋内退避・避難 <input type="checkbox"/> 孤立集落の発生を想定した陸路・空路・海路を用いた避難 <input type="checkbox"/> 観光客（外国人を含む）に対する情報提供や避難誘導 <input type="checkbox"/> 避難経路確保のための道路啓開 <input type="checkbox"/> 渋滞予測箇所等における警察官による迂回路誘導や交通整理 <input type="checkbox"/> バス運転手等民間事業者の防護対策

●参加住民数 10,777人（避難748人、屋内退避10,029人）

### 【避難指示区域】

※（ ）内は屋内退避者

区分	町村名	避難者数		避難方法
PAZ	泊 村	169	(95)	バス6台、福祉車両3台、普通車両6台
	共和町	114	(62)	バス5台、福祉車両1台
UPZ	共和町	11	(501)	バス1台
	二セコ町	48	(487)	バス2台、普通車両1台
	俱知安町	90	(2,434)	バス4台、普通車両1台
	仁木町	74	(333)	バス4台、福祉車両1台、装甲車2台、ヘリコプター1機、巡視艇1隻
	赤井川村	112	(105)	バス4台
合 計		618	(4,017)	バス26台、福祉車両5台、普通車両8台、装甲車2台、ヘリコプター1機、巡視艇1隻

### 【その他区域】

町村名	避難者数		避難方法
UPZ町村合計	130	(6,012)	泊村、岩内町、寿都町、余市町は独自訓練として避難を実施（バス7台、福祉車両3台、普通車両2台）

#### <複合災害を想定した避難>

- ・台風による避難指示に伴う避難所の開設及び屋内退避（二セコ町）
- ・実動機関による孤立集落からの陸路、空路、海路による住民避難の支援（仁木町）
- ・避難経路確保のための道路啓開（共和町）

#### <要配慮者対策>

- ・在宅要配慮者の放射線防護施設への屋内退避（4施設14人）
- ・避難訓練の実施（学校5校303人、福祉施設12施設111人）

#### <観光客対策>

- ・外国人観光客等の宿泊施設からの避難誘導（二セコ町、俱知安町）

<一時滞在場所の設置運営>

- ・避難受入自治体において一時滞在場所を設置（札幌市、留寿都村、洞爺湖町、赤井川村、登別市）
- ・道職員（振興局）による一時滞在場所の運営支援（札幌市、登別市）

<道路渋滞対策>

- ・渋滞予測箇所における迂回路誘導（共和町、倶知安町）
- ・道路情報板を活用した交通広報（共和町、赤井川村）

<集合場所でのレイアウト図の掲示>



北電体育館

<バスを利用した避難>



北電体育館

<小学校における避難>



北辰小学校

<要配慮者の屋内退避・避難>



泊村養護老人ホームむつみ荘

<大雨による避難所での屋内退避>



ニセコ駅前温泉綺羅乃湯

<道路渋滞対策>



国富交差点（共和町）

<避難経路確保のための道路啓開>



共和町北電臨時ヘリポート

<観光客に対する情報伝達と避難誘導>



ニセコアンヌプリ温泉湯心亭（ニセコ町）

<一時滞在場所の設置・運営>



登別市総合体育館

<孤立集落からの住民避難支援の多重化>



自衛隊装甲車による陸路避難



自衛隊ヘリによる空路避難



小樽海上保安部巡視艇による海路避難

## キ 原子力災害医療活動訓練

関係医療機関等と連携して原子力災害時における医療活動を行った。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道 関 係 町 村 関 係 医 療 機 関 防 災 関 係 機 関 原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 安定ヨウ素剤の緊急配布 <input type="checkbox"/> 避難退域時検査場所を開設し、避難車両や避難住民の検査、簡易除染（ルスツリゾート、キコロリゾート） <input type="checkbox"/> 医療機関への患者搬送（発電所内被ばく傷病者）と受入施設での医療措置

※ 避難退域時検査実施結果：車両20台、住民54人（うち簡易除染実施：車両5台、住民8人）

＜避難車両の検査（ゲート型モニタ）＞



キコロリゾート

＜避難車両の検査（サーバイメータ）＞



ルスツリゾート

＜避難車両の除染＞



ルスツリゾート

＜避難住民の検査＞



ルスツリゾート



ルスツリゾート

＜安定ヨウ素剤の戸別配布＞



共和町柏木地区

＜安定ヨウ素剤の配布＞



ルスツリゾート

＜原子力災害拠点病院への搬送・医療処置＞



札幌医科大学附属病院



札幌医科大学附属病院



## ク 物資緊急輸送訓練

一時移転指示区域で屋内退避を継続している住民を支援するため、必要な飲食物等の生活必需物資の緊急輸送を実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道 関 係 町 村 防 災 関 係 機 関 原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 物資の緊急輸送 <input type="checkbox"/> 輸送を担う民間事業者の防護対策

<車両中継ポイントでの説明・資機材配布> <トラック協会による物資輸送>



赤井川村山村活性化支援センター



赤井川村 グループホームあまらんす



共和町保健福祉センター

<原子力事業者による物資輸送>

## カ その他

<緊急安全対策訓練>

泊発電所内で、福島第一原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策訓練として放水砲による格納容器への放水訓練等を実施した。

<住民研修会等>

原子力防災に係る知識の普及啓発を図るため、避難バスの車内において原子力防災クイズの実施や避難先施設等において原子力防災に関する住民研修会を実施した。

<放水砲による放水訓練>



北海道電力株式会社泊発電所

<共和町の住民説明会>



ルスツリゾート




訓練の流れ

		【訓練実施場面】														
		4:00	5:00	5:00	6:00	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
気象状況 (後志地方)	後志地方に台風が接近															
	大雨・暴風警報															
主要な事態の推移	原子力災害															
	原子力規制委員会・内閣府原子力防災【仮設】															
国からの要請／指示	原子力規制委員会・内閣府原子力防災【仮設】															
	道からの要請／指示															
道の体制	道の体制															
	道の体制															
OFC	OFC															
	OFC															
現地の体制	現地の体制															
	現地の体制															
住民避難の動き	PAZ															
	UPZ															
自然災害による主な避難状況	自然災害による主な避難状況															

※表和町・二七二町・偵知安町・仁木町・赤井川村

# 10 訓練イベント時刻

<意思決定訓練>

場所	官邸・ERC (本訓練では内閣府)	OFC (北海道原子力防災センター)	道災対本部 (道庁)	町村災対本部 (13町村)
実施内容等	○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議)	○現地事故対策連絡会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) ○各機能班活動	○災害対策本部員会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) ○指揮室運営 (9:00~15:30)	○災害対策本部員会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) 等
9:00			9:00~9:15 道災害対策本部員会議 知事	9:00~9:15 町村災害対策本部員会議
9:30	10:05 緊急事態宣言	9:30~9:45 現地事故対策連絡会議 副知事 副町長ほか		
10:00	内閣府 (TV会議)	副知事 副町長ほか	10:10~10:20 第1回原子力災害合同対策協議会全体会議 知事 (TV会議)	13町村長 (TV会議)
10:30			10:20~10:30 道災害対策本部員会議 知事	10:20~10:30 町村災害対策本部員会議 
11:00		11:00~11:15 第2回原子力災害 合同対策協議会全体会議 副知事 副町長ほか		
11:30	24時間経過を想定			
		副知事 副町長ほか	11:35~11:50 第3回原子力災害合同対策協議会全体会議 知事 (TV会議)	13町村長 (TV会議)
12:00			11:50~12:00 知事	11:50~12:00
13:30				
15:00		15:00~15:20 第4回原子力災害 合同対策協議会全体会議 副知事 副町長ほか		
15:30	訓練終了			

<実動訓練>

実施内容等	実動訓練					
9:00	共和町 北電臨時ヘリポート: 9:00頃	共和町柏木地区 住民配布: 9:10頃				
9:30	道路啓開	安定ヨウ素剤緊急戸別配布	ホテルニセコアルペン ニセコアンヌプリ温泉湯心亭 9:30~9:50頃			小樽市上空 測定: 9:00頃~
10:00	PAZ要配慮者避難 泊小学校、泊中学校、 むつみ荘: バス出発: 9:30頃	PAZ要配慮者避難 北辰小学校 バス出発: 9:20頃 北電体育館 バス出発: 9:50頃	外国人観光客等 避難誘導	道路渋滞対策	道路情報板による交通広報	航空機モニタリング
10:30	泊村養護老人ホーム、 むつみ荘 施設到着: 10:15頃	PAZ要配慮者避難	共和町 保健福祉センター 施設到着: 10:20頃	共和町国富交差点 交通誘導: 9:30頃	共和町国富交差点 表示: 9:30頃	共和町国富交差点 表示: 10:40頃
11:00	要配慮者屋内退避	PAZ住民避難 北電体育館 バス出発: 10:50頃	要配慮者屋内退避			ヘリテレ映像伝送
11:30	傷病者搬送 	イオン余市店 バス到着: 11:30頃	老古美術館: 12:00頃 ルスツリゾート: 13:00頃 文化福祉センター: 11:30頃 仁木町民センター: 12:00頃 銀山生活改善センター: 12:00頃 健康支援センター: 12:00頃	倶知安町市街地 迂回路誘導: 11:40頃	オフサイトセンター他 モニター: 11:30頃 可搬モノポ: 13:00頃	自然災害による避難所 での屋内退避
12:00	岩内協会病院 傷病者受入: 10:10頃 岩内町新港東ふ頭 札幌医科大学附属病院 傷病者受入: 13:30頃	バス中継ポイント 赤井川村山村 活性化支援センター バス中継: 11:30頃	安定ヨウ素剤緊急配布	道路渋滞対策	緊急時モニタリング 赤井川村道の駅付近 表示: 12:30頃	ニセコ駅前温泉綺羅乃湯 避難所での避難: 11:00頃 バス出発: 12:00頃
12:30	赤井川村山村 活性化支援センター トラック中継: 12:45頃		UPZ住民一時移転 共和町: 11:50頃 ニセコ町: 12:00頃 倶知安町: 12:00頃 仁木町: 12:10頃 赤井川村: 12:50頃	避難退域時検査 	道路情報板による交通広報 グループホームあまらんす 共和町保健福祉センター 物資受取: 13:30頃	避難退域時検査 
13:00	トラック中継ポイント 			キロロリゾート 12:00~14:30頃	物資緊急輸送	
13:30	孤立集落避難(巡視艇) 余市港 巡視艇出発: 13:45頃	孤立集落避難(装甲車) 銀山学園 装甲車出発: 13:30頃		キロロリゾート、 倶知安町市街地、 ルスツリゾート 表示: 13:50頃	緊急安全対策訓練	ルスツリゾート 12:00~14:30頃
14:00	小樽港 巡視艇到着: 14:45頃	キロロリゾート 装甲車到着: 14:10頃	孤立集落避難(ヘリ) 銀山中学校 ヘリ離陸: 13:55頃	ヘリテレ映像伝送	緊急電所: 13:10頃	
14:30			キロロリゾート ヘリ着陸: 14:05頃			
15:00	訓練終了					

11 住民避難訓練整理表

避難元町村	輸送手段等	避難退域時検査	一時滞り場所	避難先
<p>泊村 (PAZ)</p> <p>むつみ荘</p> <p>在宅要配慮者の放射線防護対策施設への屋内退避(1名)、支援者(1名)</p>	<p>&lt;住民&gt; 24人 借バス中型2台、自家用車6台</p> <p>&lt;学校等&gt; 131人 村バス3台、借バス大型2台</p> <p>&lt;社会福祉施設&gt;むつみ荘12人 借バス小型1台、福祉車両2台</p>		南区体育館 (札幌市南区)	<p>アパホテル (札幌市南区)</p> <p>黒松内つくし園 (黒松内町)</p>
<p>共和町 (PAZ)</p> <p>保健福祉センター</p> <p>在宅要配慮者の放射線防護対策施設への屋内退避(1名)</p>	<p>&lt;在宅要配慮者&gt; 10人 町バス1台</p> <p>&lt;住民&gt; 20人 大型バス1台</p> <p>&lt;学校等&gt; 83人 借バス大型3台</p>		ルスツリゾート (留寿都村)	
共和町 (UPZ)	<住民> 11人 借バス大型1台	ルスツリゾート (留寿都村)	洞爺湖文化センター (洞爺湖町)	壮瞥町内ホテル【想定】
ニセコ町	<p>&lt;住民&gt; 27人 借バス大型1台</p> <p>&lt;外国人観光客等&gt; 湯心亭 21人 借バス大型1台、自家用車1台</p>	ルスツリゾート (留寿都村)	札幌市白石区体育館 (札幌市白石区)	<p>札幌市内ホテル【想定】</p> <p>UPZ外</p>
倶知安町	<p>&lt;住民&gt; 56人 借バス大型2台、中型バス1台</p> <p>&lt;外国人観光客等&gt; アルペン 34人 借バス大型1台、自家用車1台</p>	ルスツリゾート (留寿都村)	登別市総合体育館 (登別市)	<p>登別市内ホテル【想定】</p> <p>UPZ外</p>
仁木町	<p>&lt;住民&gt; 30人 &lt;要配慮者施設&gt;23人 借バス大型2台 ※借バス大型1台(帰町用) ※福祉車両2台(帰町用)</p> <p>&lt;銀山地区孤立住民&gt; 15人 自衛隊装甲車2台、ヘリ1台 ※借バス小型1台(帰町用)</p> <p>&lt;要配慮者施設&gt; 2人 福祉車両1台</p> <p>&lt;海路避難住民&gt; 4人 海保船舶1隻(余市港→小樽港) 借バス小型1台</p>	<p>キロリゾート (赤井川村)</p> <p>中央水産試験場 (余市町)</p>	<p>札幌市手稲区体育館 (札幌市手稲区)</p> <p>札幌市手稲区体育館 (札幌市手稲区)</p>	<p>札幌市内ホテル【想定】</p> <p>避難先施設 (北広島市)他</p> <p>札幌市内ホテル【想定】</p>
赤井川村	<p>&lt;住民&gt; 23人 借バス大型1台</p> <p>&lt;学校等&gt; 89人 村所有バス 1台 借バス大型 2台</p>		キロリゾート (赤井川村)	

※泊村、岩内町、寿都町、余市町では、訓練想定とは別に独自に住民避難訓練を実施。

## 12 訓練実施場所図



©2018ZENRIN CO., LTD. (Z18LD第1959号)

- |  |  |
|--|--|
| <p>①オフサイトセンター (共和町南幌似 141-1)</p> <p>②北海道庁 (札幌市中央区北 3 条西 6 丁目)</p> <p>③俱知安町瑞穂ポスト (俱知安町字瑞穂 350-13)</p> <p>④泊村泊小学校他 (泊村 134)</p> <p>⑤泊村泊公民館他 (泊村大字茅沼村 172-7)</p> <p>⑥泊村養護老人ホームむつみ荘 (泊村大字茅沼村 711-3)</p> <p>⑦共和町北辰小学校 (共和町発足 2900)</p> <p>⑧共和町ほくでん体育館 (共和町宮丘 184-34)</p> <p>⑨共和町保健福祉センター (共和町南幌似 57-12)</p> <p>⑩共和町老古美会館 (共和町老古美)</p> <p>⑪二セコ町二セコ駅前温泉綺羅乃湯 (二セコ町中央通 33)</p> <p>⑫俱知安町文化福祉センター (俱知安町南 3 条東 4-2-2)</p> <p>⑬仁木町銀山生活改善センター他 (仁木町銀山 2-470)</p> <p>⑭仁木町銀山学園 (仁木町銀山 2-134)</p> <p>⑮仁木町銀山中学校 (仁木町銀山 2-113)</p> <p>⑯余市町余市防備隊専用港 (余市町港町)</p> <p>⑰赤井川村健康支援センター他 (赤井川村赤井川 318-1)</p> <p>⑱余市町イオン余市店 (余市町黒川町 12-62-1)</p> <p>⑲俱知安町ホテルニセコアルペン (俱知安町字山田 204)</p> <p>⑳二セコ町ニセコマリ温泉湯心亭 (二セコ町字ニセコ 438)</p> <p>㉑共和町北電臨時ヘリポート (共和町宮丘 211-1)</p> <p>㉒共和町国富交差点 (共和町国富)</p> <p>㉓俱知安町国道 276 号周辺 (俱知安町北 4 条付丘)</p> <p>㉔赤井川村道の駅付近 (赤井川村都)</p> <p>㉕赤井川村山村活性化支援センター (赤井川村常盤 443-1)</p> <p>㉖共和町柏木地区 (共和町宮丘 9)</p> <p>㉗留寿都村ルスツリゾート (留寿都村字泉川 13)</p> <p>㉘赤井川村キロロリゾート (赤井川村常盤 128-1)</p> <p>㉙岩内町岩内協会病院 (岩内町高台 209-2)</p> <p>㉚岩内町新港東ふ頭 (岩内町大浜)</p> <p>㉛札幌医科大学附属病院 (札幌市中央区南 1 条西 16 丁目)</p> <p>㉜赤井川村グループホームあまらんす (赤井川村赤井川 409-1)</p> <p>㉝泊村北海道電力(株)泊発電所 (泊村大字堀株村)</p> | <p>緊急事態応急対策等拠点施設運営訓練</p> <p>災害対策本部等設置運営訓練</p> <p>緊急時モニタリング実動訓練</p> <p>PAZ 要配慮者避難訓練</p> <p>PAZ 住民避難訓練</p> <p>PAZ 要配慮者避難訓練・屋内退避訓練</p> <p>PAZ 要配慮者避難訓練</p> <p>PAZ 要配慮者避難訓練・PAZ 住民避難訓練</p> <p>PAZ 要配慮者屋内退避訓練</p> <p>物資緊急輸送訓練②</p> <p>UPZ 住民一時移転訓練・安定ヨウ素剤配布訓練</p> <p>自然災害による避難所での屋内退避訓練</p> <p>UPZ 住民一時移転訓練</p> <p>UPZ 住民一時移転訓練・安定ヨウ素剤配布訓練</p> <p>UPZ 住民一時移転訓練・安定ヨウ素剤配布訓練</p> <p>孤立住民陸路 (装甲車) 避難訓練</p> <p>孤立住民空路 (ヘリ) 避難訓練</p> <p>孤立住民海路 (巡視艇) 避難訓練</p> <p>UPZ 住民一時移転訓練・安定ヨウ素剤配布訓練</p> <p>避難経路上休憩施設開設訓練</p> <p>外国人観光客等避難誘導訓練①</p> <p>外国人観光客等避難誘導訓練②</p> <p>道路啓開訓練</p> <p>道路渋滞対策・交通広報訓練</p> <p>道路渋滞対策訓練</p> <p>交通広報訓練</p> <p>車両中継ポイント運営訓練</p> <p>安定ヨウ素剤緊急戸別配布訓練</p> <p>避難経路域時検査訓練・安定ヨウ素剤配布訓練</p> <p>避難経路域時検査訓練</p> <p>知事ぶら下がり会見</p> <p>被災者傷病者受入訓練</p> <p>被災者傷病者搬送訓練</p> <p>被災者傷病者受入訓練</p> <p>物資緊急輸送訓練①</p> <p>緊急安全対策訓練</p> |
|--|--|

### 13 事前準備・結果報告等（冬季要素訓練を含む）

#### (1) 会議等

地元自治体や防災関係機関、道内各都庁との会議等を開催し、訓練計画・項目・内容などについて、協議・調整を行うとともに、実施結果について報告を行った。

開催年月日	会議名等
平成 30 年 4 月 26 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）
平成 30 年 4 月 27 日	原子力防災事務担当者会議（後志管内 13 町村等）
平成 30 年 5 月 16 日	北海道防災会議常任幹事会
平成 30 年 5 月 31 日	北海道防災会議
平成 30 年 6 月 8 日	原子力防災訓練事務担当者会議
平成 30 年 6 月 8 日	泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 30 年 6 月 15 日	原子力防災に関する連絡会議（石狩・後志・胆振・渡島管内関係市町村）
平成 30 年 7 月 13 日	原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 30 年 7 月 25 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）
平成 30 年 8 月 23 日	原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 30 年 8 月 23 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）
平成 30 年 8 月 24 日	北海道防災会議常任幹事会
平成 30 年 9 月 18 日	北海道防災会議常任幹事会
平成 30 年 9 月 28 日	原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 30 年 9 月 28 日	泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 30 年 10 月 1 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）
平成 30 年 10 月 16 日	原子力防災訓練会議（内閣府等）※TV 会議
平成 30 年 11 月 19 日	原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）
平成 30 年 11 月 20 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）
平成 30 年 12 月 18 日	原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 30 年 12 月 18 日	泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 30 年 12 月 18 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）
平成 30 年 12 月 25 日	北海道防災会議常任幹事会
平成 31 年 1 月 22 日	原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 31 年 1 月 22 日	泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 31 年 1 月 22 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）
平成 31 年 1 月 28 日	原子力防災に関する連絡会議（石狩・後志・胆振・渡島管内関係市町村）
平成 31 年 1 月 31 日	原子力防災訓練会議（内閣府等）※TV 会議
平成 31 年 3 月 18 日	原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）
平成 31 年 3 月 18 日	泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議
平成 31 年 3 月 18 日	防災・減災対策推進本部原子力部会（道内各都庁等）

## (2) 北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員会

北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員から訓練内容について専門的見地からの意見を伺うとともに、実施結果について専門委員（学識経験者）に対する報告を行った。

- ・平成 30 年 8 月 16 日 専門委員（学識経験者）との意見交換
- ・平成 30 年 10 月 22 日 専門委員（学識経験者）による訓練視察
- ・平成 31 年 2 月 4 日 専門委員（学識経験者）による訓練視察
- ・平成 31 年 3 月 26 日 有識者専門委員会

## (3) 住民等への周知

訓練の実施について、道及び関係 13 町村のホームページや広報誌に掲載するとともに、「原子力防災だより」を関係 13 町村全戸や各町村内の主要施設に配布するなど、住民への周知を行った。

また、原発が所在している他県や道内関係市町村に対し、周知を行った。

## (4) その他

- ・平成 30 年 10 月 9 日 北海道議会総務委員会へ訓練実施について報告
- ・平成 30 年 10 月 15 日 報道機関へ訓練の実施について事前レクチャー
- ・平成 30 年 10 月 22 日 北海道議会総務委員会による訓練視察
- ・平成 30 年 10 月 22 日 報道機関へ訓練の実施結果について事後レクチャー
- ・平成 30 年 11 月 6 日 北海道議会総務委員会へ訓練実施結果について報告



## 第2 冬季要素訓練

### 1 目的

平成30年10月に実動訓練と意思決定訓練を連動させた原子力防災訓練を実施したところであるが、初動対応の確認や様々な事態に即応できる要員の対応能力の向上を図るため、冬季要素訓練として、地震発生から全面緊急事態に至る場面まで、意思決定訓練（オフサイトセンター運営訓練、災害対策本部運営訓練）をブラインド方式で実施する。

### 2 実施日時

平成31年2月4日（月）8：30～16：00

### 3 主催

北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村

### 4 場所 [実動訓練場所]

北海道原子力防災センター（共和町）、北海道危機管理センター（札幌市）ほか

### 5 対象施設

北海道電力株式会社 泊発電所（3号機）

### 6 参加・協力機関

防災関係機関等 75機関（防災業務関係者 483人）

北海道警察、岩内・寿都地方消防組合、北後志消防組合、羊蹄山ろく消防組合、原子力規制委員会原子力規制庁、泊原子力規制事務所、内閣府、北海道総合通信局、経済産業省北海道経済産業局、国土交通省北海道開発局、国土交通省北海道運輸局、気象庁札幌管区气象台、海上保安庁第一管区海上保安本部、環境省北海道地方環境事務所、陸上自衛隊北部方面隊、（公社）北海道トラック協会、（一社）北海道バス協会、小樽建設協会、北海道電力（株）（ほか）

### 7 訓練想定

泊村において震度6弱の直下型地震が発生し、稼働中の北海道電力株式会社泊発電所3号機は自動停止する。その後、何らかの設備故障により原子炉冷却材が漏えいが発生するなど事態が進展し、全面緊急事態まで至る（その後収束し、放射性物質の放出はなし）。

※ 訓練における気象状況は、訓練当日の実際の気象状況とした（訓練当日は暴風雪）。

### 8 訓練内容

#### （1）オフサイトセンター運営訓練

オフサイトセンターに、国、道、関係13町村及び防災関係機関から、あらかじめ定められた要員が参集し、体制を構築して、事故の状況や防災関係機関の対応状況を把握しながら、必要な情報共有と複合災害における防護措置の実施方針の調整・確認を行った。

※ オフサイトセンターにおける会議の設定時間、会議の発話の内容、会議資料の作成を含め、ブラインド方式により実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
内 閣 府 原 子 力 規 制 庁 泊 原 子 力 規 制 事 務 所 北 海 道 関 係 1 3 町 村 防 災 関 係 機 関 原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> オフサイトセンターへの要員参集（道、13町村、国の機関等） <input type="checkbox"/> 各機能班を設置し、事故の状況や防災関係機関の対応状況を収集・整理 <input type="checkbox"/> スクリーン表示するなど各機能班相互の情報共有 <input type="checkbox"/> 複合災害を想定した防災関係機関との対応の調整 <input type="checkbox"/> 現地事故対策連絡会議（EAL(SE)段階）や原子力災害合同対策協議会（EAL(GE)段階）を開催 <input type="checkbox"/> TV会議を開催し、防護措置の実施方針を確認・調整

<OFC 参集者への指示>



<OFC 機能班班長会議>



<OFC 総括班の活動>



<現地事故対策連絡会議>



<実施方針の作成>



<OFC スクリーンを活用した情報共有>



<原子力災害合同対策協議会>



<OFC 実動対処班の活動>



## (2) 災害対策本部等運営訓練

災害対策本部を設置し、事態の推移に応じて本部員会議やTV会議を開催し、本部内や防災関係機関と情報共有を図った。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道	<本庁> <input type="checkbox"/> 道災害対策本部の設置・運営。道本部員会議ほか各種テレビ会議を開催 <input type="checkbox"/> 北海道危機管理センターにおける指揮室の運営 (北海道バス協会から指揮室にバス運行調整役のリエゾンを派遣) <オフサイトセンター> <input type="checkbox"/> 道現地災害対策本部を設置・運営
関 係 1 3 町 村	<input type="checkbox"/> オフサイトセンターからの照会等への対応や各種TV会議への参加
原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 本店及び泊発電所に原子力災害対策本部を設置・運営

<指揮室内でのOFCとの連絡調整>



<指揮室内での班長会議>



<北海道災害対策本部員会議>



<OFC内の道現地本部の活動>



## (3) 緊急時通信連絡訓練

各種通信手段を用いた事故状況や対応状況等に関する防災関係機関相互の通報連絡及び関係機関への情報伝達を実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
全 機 関	<input type="checkbox"/> 電話、FAX（一般回線や専用回線）、防災行政無線を用いた防災関係機関相互の通報連絡 <input type="checkbox"/> 北海道バス協会、バス事業者と連携した避難バス確保に向けた通信連絡 <input type="checkbox"/> 避難先自治体等への事故状況の伝達や避難受入要請

#### (4) 緊急時環境放射線モニタリング訓練

道による緊急時モニタリングを経て、国が緊急時モニタリングセンター（EMC）を設置し、国、道、関係13町村、原子力事業者と連携して、緊急時における環境放射線のモニタリング活動をした。

機 関	主 要 活 動 項 目
泊原子力規制事務所 北 海 道 関 係 1 3 町 村 原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 道による緊急時モニタリング及び国によるEMC立上げ準備への協力 <input type="checkbox"/> EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング実施内容の検討（実施計画案の修正）、指示及び情報伝達 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング情報共有システム等によるモニタリング情報の収集、整理、確認及び報告 <input type="checkbox"/> OFC放射線班等への緊急時モニタリング結果の提供及び情報共有

<EMC 立ち上げ準備への協力>



<緊急時モニタリング実施内容の検討>



#### (5) 広報訓練

事故状況や防護措置の実施状況を取りまとめ、報道提供資料の作成や模擬記者会見を実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道 防 災 関 係 機 関	<input type="checkbox"/> OFC広報班による報道発表資料（案）の作成 <input type="checkbox"/> OFCプレスルームにおける模擬記者会見の実施

<OFC 広報班による報道発表資料（案）の作成>



<模擬記者会見の様子>



#### (6) その他

<ゲート型モニターによる車両検査訓練>

平成29年度北海道原子力防災訓練（平成30年2月8日実施）の避難区域時検査において、凍結路面での車両検査に時間を要したことを踏まえ、オフサイトセンターの駐車場において、冬季のゲート型モニターによる車両検査の改善した手順を確認した。

<防滑対策を行ったゲート型モニターによる車両検査>



# 訓練の流れ(2月4日)

## 9 訓練の流れ

		8:30 地震発生 (警戒事態)	9:00	10:00 10条通報	11:00	12:00	13:00	14:00 15条通報	15:00	16:00
主要な事態の推移	地震災害状況 (後志地方)	泊村で直下型地震発生 泊村：震度6弱	地震による被害状況(人的被害・家屋被害・ライフライン等)は時間の経過に伴い少しずつ判明							
	気象状況 (後志地方)	訓練当日の天候状況で訓練実施								
国からの要請/指示	原子力災害 (泊発電所3号機)	警戒事態	施設敷地緊急事態							
	規制委員会・ 内閣府原子力防災 【仮想】	自動停止 非常用炉心冷却装置の作動	非常用炉心冷却装置による一部注水不能							
道の体制 (注)	道の体制	連絡体制の確立等 原子力災害対策本部設置 (原子力災害緊急要員) ↓	泊村会議(ERCC)進行 泊村会議(ERCC)進行	避難準備要員の確保 OPAZ内要避難者は 避難準備 OPAZ内住民は 避難準備 OPUZ内住民は 屋内退避準備	避難準備要員の確保 OPAZ内要避難者は 避難準備 OPAZ内住民は 避難準備 OPUZ内住民は 屋内退避準備					
	OFC(EMC) (注)		原子力事故合同 現地警戒本部	原子力事故合同 現地対策本部						
現地の体制	国現地本部(OFC)の 機能發揮状況	【道庁】 【OFC】	【道現地(警戒)本部】	【OFC】 ※到着した要員から機能研活動に参加						
	道現地本部(OFC)の 機能發揮状況	【道庁】 ※現地警戒本部(OFC) の機能をハブアップ	【現地警戒本部(OFC)】 ※後志総合振興局等の要員 の到着により機能發揮	【現地本部(OFC)】 ※後志総合振興局等の参集 済みの要員にて対応						
住民避難の動き	PAZ	PAZ内要避難者 避難準備	PAZ内住民	避難準備						
	UPZ		UPZ内住民	屋内退避準備						
自然災害による主な道路状況			UPZ内一時滞在者(移動手段あり) UPZ内一時滞在者(移動手段なし)	避難 避難準備						
				地震により一部道路が通行止め						
訓練終了										

(注) 本部員会議やOFC内での会議時間は訓練の中で決定されるため、流動的であることにご留意ください。

### 第3 課題等整理表（関係機関等事後調査結果）

#### 1 総合訓練：平成30年10月22日実施

##### (1) 訓練全般に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○OFCに訓練状況を説明できるスタッフが配置されており、参観者に説明・案内していたことから、参観者にもわかりやすい訓練となっていた。	引き続き、スタッフを配置するなど、参観者に訓練状況がわかるよう、対応を工夫する。
○意思決定訓練と実動訓練を同日に実施したことで、一連の流れが理解できた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●意思決定と実動を同日に行うのであれば、もう少し意思決定と実動をリンクさせる部分が多くても良いのではないか。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●意思決定と実動を同日に実施したことで、OFC要員が実動訓練スタッフとして対応せざるをえないなど、要員の確保に苦慮した。	
●事前想定との把握は非常に重要な事項であるが、事前説明・状況把握の時間が短く、状況把握に苦慮した。	
●ERC役コントローラは国の職員など国の動きを分かっている人間が行うべきである。	引き続き、国に訓練の支援を要請し、実際に近い形での訓練となるよう努める。
●シナリオ訓練では、要員の対応力向上という点での課題が把握しにくいので、ブラインド方式による訓練を実施した方が良いのではないか。	今後も、関連機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。（冬季要素訓練において、ブラインド方式による訓練を実施。）
●今回の訓練で想定とした部分（例えば放射性物質放出からOIL2の区域特定まで）の訓練を実施した方が良いのではないか。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、対応を検討する。
●原子力災害・原子力防災に係る専門用語や略語が分からないので、用語集等があれば良いと感じた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。

##### (2) 災害対策本部等設置運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●OFCの問い合わせ先として、各町村に直接問い合わせる方が、町村の本部運営訓練としても、良い訓練になるのではないか。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。（冬季要素訓練において、OFCから直接町村に問い合わせをする訓練を実施。）

##### (3) OFC運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○住民安全班のブースに気象担当専用の場所と端末が用意されたので、気象状況の常時監視や情報提供を適切に実施することができた。	引き続き、住民安全班のブースに気象担当専用の場所と端末を用意する。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○訓練開始直後に、機能班班長による班長会議を実施しており、適切に情報共有されていた。その後の情報共有等の中でも積極的に班長会議等を活用するとなお良いと感じた。	今後も班長会議を積極的に活用していく。（冬季要素訓練において、班長会議による情報共有を積極的に実施。）
○第4回合同対策協議会は、各機能班が現場で情報を収集し、資料を作成しており、現実味のある訓練となっていた。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。（冬季要素訓練において、ブラインド方式による訓練を実施。）
●訓練参加者に対してOFCの目的や機能を説明した方が良いのではないか。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●訓練開始時に要員参集報告を行う際に、参集者の人数を報告していない班が散見された。	
●パソコンの台数が限られており、一部の班員に業務が集中した。	班員の役割分担について、関係機関と協議し、検討するとともに、今後のシステム更新等に合わせ、各機能班等のパソコンを増やすよう、引き続き、原子力規制庁に要望していく。
●OFCのパソコンが国のものと道のものがあり、道のパソコンの用途がわからない。また、道のパソコンからOFCのフォルダ等にアクセスできない。	今後のシステム更新等に合わせ、道のパソコンと国のパソコンを接続できるよう、引き続き、原子力規制庁に要望していく。
●経験が浅い職員だと何をして良いかわからず指示待ちのような状態になってしまっているため、事前に予習させる等の仕組みがあると良いのではないか。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●活動初期段階において、活動システムの取扱いに苦勞し、各機能班への情報共有が遅れた。	
●研修を受けていない要員には、機器の操作方法がわからない要員もいたため、そういう要員が参集した場合の対応（基本的な機器の操作マニュアル等）も想定した方が用意のではないか。	各機能班の机の上に機器の操作マニュアル等を常備しているので、有事の際に活用できるよう、研修会や訓練等を通じて、周知していく
●道路の通行止め情報に地図が添付されずに共有されたため、通行止めの箇所の把握に時間を要した。	実効的な情報共有ができるよう、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●発電所事故の事態進展の周知について、総括班とプラントチームのどちらかが主導で行うべきかの整理されておらず、混乱が生じた。	泊原子力規制事務所に運営要領を見直し、OFC内の情報共有等について明確化するよう求める。
●OFC内の情報共有方法や情報伝達のルート等について、事前にマニュアル化しておくなど、決めておくべきではないか。	
●国の訓練では、各機能班は機能班マニュアルに基づいて実施されているが、本訓練においては使用されていなかった。	国に機能班マニュアルの提供を求めるとともに引き続き、研修会や訓練等を通じて、国の機能班の考え方等の周知に努めていく。
●班機能内の役割が明確になっていないため、誰が何をすれば良いか混乱している時間帯があった。機能班内の役割は、各所属の業務に合わせるなど、ある程度固定した方が良いのではないか。	泊原子力規制事務所と協議し、班内の役割分担について明確化を図るとともに、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●実際の班長は国の要員となることから、連携に不安が残る。	引き続き、国に訓練への支援を要請するとともに、研修会や訓練等を通じて、国の機能班運営の考え方等の周知に努めていく。

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●手が空いている要員がいたが、他の人の業務を手伝う等の指示・対応ができなかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。(冬季要素訓練では、要員が足りていない班を他の班員が支援する活動が見られた。)
●住民安全班の人数が他の班と比べ多すぎ、統制が取れていない。	住民安全班は住民の防護措置の調整、取りまとめを行うとともに、その実施状況の把握などの業務を行うため、他の班と比べ、人数が多く配置されているところであるが、今後、泊規制事務所と協議し、班内の役割分担の明確化を図る。
●現在、住民安全班に配置されている道警からの要員について、迅速な実動対応の観点から、実動対処班に配置換えしてほしい。	O F C 参集要員の配置について、今後、泊規制事務所と協議し、検討していく。
●情報管理責任者の負担が過重になっている班があった。副班長と役割分担するなど適切な役割分担が必要と感じた。	班内の役割分担等については班長の権限であり、今後の訓練等で改善に努める。
●派遣要員の役割分担はホワイトボードに掲示するなど「見える化」することで、より班員が意識できて良いのではないかな。	今後、班内の役割分担を掲示するなど、対応を検討する。
●主要活動ボードの記入の仕方に一定のルールがなく、一貫性がなかった。	今後の研修会等を通じて各機能班で主要活動ボードの活用法について検討していく。
●O F C 全体会議室の中央にある地図上のマップに付箋が貼ってあるものがあったが、小さくて読み取れず、活用されていなかった。	研修会や訓練等を通じて、実効的な情報共有ができるよう、努めていく。
●広報班に対する付与が不足していたので、例えば、SE、GE 事象を公表した直後に問合せが殺到するなどの付与を入れれば、より実効的な活動となるのではないかな。	OFC 機能班への状況付与等を充実させるなど、より実効的な訓練になるよう、検討していく。
●原子力災害時の問い合わせ想定 (Q & A) について、毎回ゼロから作成するのではなく、過去の訓練等で作成したものをベースに更新していく方が効果的である。	国に想定 (Q & A) の提供を求めるとともに、関係機関と調整のうえ、適切に対応する。
●午前中の活動について、会議と会議の間の時間が短く、会議開催回数も多かったので、会議対応中心の機能班活動となってしまった部分があった。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●昼食 (非常食) の準備に時間が掛かり、運営支援班の他の活動に支障をきたした。	関係機関と協議し、訓練における昼食の摂りかたについて検討する。(冬季要素訓練では、各自昼食を持参。)
●訓練のたびに業務や役割を把握するのに苦慮するので、連絡員の役割を明確にしてほしい。	町村・関係機関の連絡員は、各所属とO F C の機能班等との連絡調整のために派遣することができるものとされている。訓練では、連絡員の対応力向上に繋がるような内容を検討する。
●実動対処班に福祉車両 1 台の手配要請があったが、救急車等で対応可能な範囲であり、実動対処班に要請する内容として現実的ではなかった。	OFC 機能班への状況付与等を充実させるなど、より実効的な訓練になるよう、検討していく。
●実動の現場を知っている実動機関の職員をコントローラに入れた方がより良い訓練になるのではないかな。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。(冬季要素訓練において、コントローラとして実動機関の職員を配置。)
●機能班同士の連携に加え、E R C との連携をもう少し意識できれば、さらに良い活動になると考える。	E R C との連携を意識させる状況付与を充実させるなど、より実行的な訓練になるよう、検討していく。



#### (4) 緊急時通信連絡訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●活動情報システムが次々と更新されるため、必要な情報を探すのに時間と手間がかかる。	活動情報システムの活用方法について、関係機関と協議し、対応していく。

#### (5) 緊急時環境放射線モニタリング訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
● E M C では情報共有システムが閲覧できない。E M C でも O F C や自治体間で共有されている情報が閲覧できるようにすべきである。	今後の国のシステム更新により、E M C でも情報共有システムが閲覧可能となる予定。
● O F C 1 階の計測室等や原子力環境センター札幌分室と E M C との情報共有方法が効率的でない。	効率的な情報共有ができるよう、関係機関と協議し、検討する。
● E M C から評価報にデータ評価がなかった。異常があるかどうかはひと目でわかったほうが良い。	関係機関と調整のうえ、わかりやすい記載となるように検討する。
●モニタリング指示書等を 13 町村に F A X するのに時間がかかった。	モニタリング指示書の内容等の簡略化を検討していく。
●車両の養生について、最低限やる場所等を示しているものがあると良い。	写真で具体例を示すなど、要員がわかりやすく作業できるよう検討する。
●モニタリング要員の汚染検査について、記録シートの記入方法等がわからなかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●更衣室から被ばく管理室への入室について、一人ずつ入室せず 3 人同時に入室していた。	
●海上保安本部の巡視船等を活用した海上モニタリング支援訓練が必要ではないか。	国において適切に海上モニタリングを実施するよう求めていく。

#### (6) 広報訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●広報車による広報ルートが重複した。	各町村において関係機関と調整のうえ、広報車ごとのルートを事前に決めておくなど、効率的な広報について検討していく。
●住民から、広報車の放送内容が聞き取れないという指摘があった。	広報車による効果的な放送方法（広報車の速度、広報文の読み上げのスピードなど）について検討していく。
●日本語のエリアメールにも英語で訓練（THIS IS JUST A TEST）と併記するなど、外国人でもはじめから訓練と分かる記載があった方が良い。	関係機関と協議し、対応を検討していく。

(7) 住民避難訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
○事前に避難元自治体と避難先自治体で意見交換会を実施したことにより、訓練時も円滑なコミュニケーションが取れ、一時滞在場所の設置・運営がスムーズに行われた。	引き続き、避難元自治体と避難先自治体の意見交換会を実施するなど、平常時からの連携に努める。
○一時滞在場所の運営等について、関係振興局の職員による支援を試行的に実施したが、有事の際の対応を考えると非常に効果的な訓練となった。	引き続き、関係振興局の職員による一時滞在場所等の支援について検討するとともに、研修会や訓練等を通じて、振興局職員の原子力防災に係る対応力向上にも努めていく。
○避難バスに乗車する役場職員は住民と接する時間が長く、住民への対応も直接生じるため、役場からの情報提供が重要である。今回の訓練で役場とバス車内での情報共有ができたことは有意義であった。	役場とバス車内での情報共有について、共有すべき情報や情報共有のための手段等について、引き続き検討していく。
●ブラックアウトの時のように、使用できる電気が限られる事態を想定し、日頃から、マニュアルや名簿等を印刷し準備しておく必要を感じた。	日頃から必要な資料は紙媒体で準備し、一括保管するなど、適切に対応していく。
●自然災害発生時には道路が通行止めとなる可能性があるため、道路管理者との連携が重要となる。	引き続き、道路管理者や関係機関等と協議し、連携に努めていく。
●参加されている住民は高齢の方が多い。各年齢層の幅広い参加がある方が効果的だと思われる。	小中学校の積極的な参加を促すなど、幅広い年齢層の方に参加いただけるよう取り組んでいく。
●住民を海路で避難させる訓練について、住民の海路避難の実効性について検討すべき（泊周辺には大型巡視船が入港できる港がない。）。	引き続き、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●孤立住民を想定した実動機関による住民避難について、冬季の場合を想定する必要がある。	
●外国人観光客等避難誘導訓練において、外国人からの質問に対して的確に回答できない場面が見られた。	観光施設担当者向けの初動対応マニュアルの内容を見直すとともに、研修会等を通じて、マニュアルの周知に努める。
●外国人観光客等避難誘導訓練において、避難について記載した資料や地図は訓練企画側で用意したものであったため、実際に施設にあるもので対応しなければならないという点は課題。	
●外国人観光客等避難誘導訓練において、ボイストラやメガホンヤクといった機器の検証が適切になされていた。ただし、メガホンヤクについては、各ホテルに配備されているものではないので、今後の対応を含め、検討する必要がある。	
●外国人観光客等避難誘導訓練において、定型的な内容も重要ではあるが、ホテルからの説明内容をより実践的な方向に近づけていくことも必要と感じた。	研修会等を通じて、観光施設担当者向けの初動対応マニュアルの周知に努めるとともに、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●外国人観光客等避難誘導訓練において、訓練ではバスにより避難する方々のみへの説明だったが、実際にはレンタカーや公共交通機関による旅行者もいるので、訓練でも説明すべきと考える。	

(8) 原子力災害医療活動訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●安定ヨウ素剤に係る問診アンケートについて、用紙が複数枚あり、その都度名前等を記載しなければならず手間がかかっていた。	チェックシートなどについて、関係機関と協議し、改善を検討していく。
●安定ヨウ素剤の配布について、発災時には十分な人員確保が出来ない可能性もあるため、誰が従事しても一定の対応ができる資料が必要ではないか。	
●安定ヨウ素剤の配布について、発災時には十分な人員確保ができない可能性もあるため、誰が従事しても一定の対応ができる資料が必要ではないか。	配布担当者の確保を含め、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●バスの車内で安定ヨウ素剤の配布を実施したが、疑義が生じた場合の医師等への確認方法について、整理・訓練が必要と感じた。	関係機関と協議し、問い合わせ先を記入するなど対応を検討していく。
●今回の安定ヨウ素剤の配布訓練では丸剤のみの配布であったが、乳児用のゼリー剤も用意してほしい。	関係機関と協議し、乳幼児ゼリー剤についても対応を検討していく。
●安定ヨウ素剤の配布について、実際の形等に関する質問があったので、見本(実物)や写真等を用意しておいた方が良い。	関係機関と協議し、見本や写真等を用意するなど、対応していく。
●避難退域時検査については意思決定訓練との連動がほとんどなかったため、検査開始の連絡や途中の状況報告など意思決定訓練と連動した訓練があっても良かったのではないかと。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●避難退域時検査について、訓練の時間に対し、対象となる車両数が少ないので、台数を増やせば、より実態に近い訓練となるのではないかと。	
●避難退域時検査について、車両の除染の間、バス車内の住民に対して状況等の説明がなかったため、住民の安心のためにも状況説明等をした方が良く感じた。	
●避難退域時検査時に着用するゴーグルについて、着用方法をしっかり事前に教える機会を設けるべき。また、ゴーグルについては、検査時に曇ってしまい、対応に苦慮した。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、資機材の適切な使用方法の周知に努めていく。
●避難退域時検査の車両の通過証を予め用意しておくことにより車両検査がスムーズになった。車両登録票の記載については、もっと見た目にわかりやすい内容とした方が良くのではないかと。	関係機関と協議し、車両登録票の内容等について検討していく。
●避難退域時検査について、車両除染後の汚染水については、傾斜を利用し適切に対応されていたが、平らな検査場などの場合、汚染水を回収出来る工夫が必要。	関係機関と協議し、実効的な車両の除染方法を検討していく。
●避難退域時検査について、車両の運転手がどう進行すべきか迷っている場面が見られたため、誘導担当者を十分に置くか看板等によりしっかり動線を設定した方が良くのではないかと。	関係機関と協議し、今後の訓練において対応を検討していく。
●避難退域時検査の車両検査について、福祉車両、救急車、重機(道路啓開や除雪対応)等の検査についても検討が必要。	

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●避難退域時検査の住民検査について、基準値以上の場合は、見た目ですぐわかる様式とした方が良いのではないか。	関係機関と協議し、様式の改善を検討していく。
●避難退域時検査の住民検査について、場内のレイアウトや順路の掲示が必要。また、手荷物やペットの対応も検討が必要。	関係機関と協議し、今後の訓練において対応を検討していく。
●避難退域時検査の住民検査において、足の裏を検査する際には、手すり等があった方が良いのではないか。	
●避難退域時検査の住民検査について、検査を待っている住民が椅子を順々に移っているが、汚染者がいた場合、汚染を拡大させてしまうのではないか。	住民待機場所について、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●被災地住民登録票に記載する際、手が汚染されている住民がいた場合、そのファイルやペンも汚染されるおそれがある。	記載方法などについて、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●被ばく傷病者の受入要請の要請先が通常とは違う部署に入ったため、搬送や通報の手順を整理・確認する必要性を感じた。	搬送や通報の手順を整理するとともに、関係者でその内容を確認・共有する。
●被ばく傷病者の受入に係る院内の養生について、事務職員が行えるようにしておく必要がある。	受入機関において院内研修の実施など、有事の際の対応について検討していく。
●被ばく傷病者の搬送訓練について、パッキング後は受傷部の観察ができないため、受傷程度や処置内容について、より詳細な引継が必要だと感じた。	引継内容について、関係機関と協議し、対応を検討していく。

## （９）その他訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●車両中継ポイント運営訓練について、資機材の使用方法を説明する必要があるが、普段から原子力防災に携わっている職員を割り当てられるのか検討が必要。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、資機材の適切な使用方法の周知に努めていく。
●道路啓開訓練について、実際に即した通信連絡を実施しても良いのではないか。	より実効的な訓練となるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において、対応を検討していく。
●防護服を着用した職員が携帯電話を使用することは困難。	今後、関係機関と協議し、適切な連絡方法等を検討していく。

## 2 冬季要素訓練：平成31年2月4日実施

### (1) 訓練全般に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○初動からの訓練だったので、参集における時間的尺度や各要員の参集具合等が分かって有意義だった。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。
○実施方針（案）のひな形があったので、作業しやすかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解に努めていく。
●住民避難のタイミングで暴風雪警報が発表されており、原子力災害合同対策協議会全体会議で状況に応じた検討がなされたことは良かったが、本来は実施方針（案）策定時に検討しておくべきだった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、実施方針（案）の作成・確認に係る手順について、各要員の理解と周知に努めていく。
●全面緊急事態の実施方針について、今回の訓練ではひな形を作成し、それを元に実際の状況に応じた実施方針（案）を作成する取組が行われたが、OFC要員や自治体担当者がひな形を完成版と勘違いしている状況が見られた。	
●地震を想定した訓練ということであれば、余震発生時の事象を付与した方が良いのではないか。	より実効的な訓練になるよう、意思決定訓練における状況付与等の充実について検討していく。

### (2) OFC運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○参集要員が足りない班について、他の班の要員に一時的に支援させるなどなど、臨機応変な対応ができていた。	様々な状況に応じた対応ができるよう、引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
○実動機関の職員をコントローラに入れたことにより、各実動の現実に近い状況把握ができた。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。
○スクリーンやモニターを活用した情報共有について、昨年度の訓練に比べ、状況図が非常に見やすく、状況把握しやすくなった。	実効的な情報共有ができるよう、引き続き、状況図等の改善に努めていく。
●初動対応時は人数が少なく大変なことがわかった。役割分担等を明確にしておいた方が良いと感じた。	泊原子力規制事務所と協議の上、OFC参集要員や役割分担について、明確化を図るとともに、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●参集要員が少ないうちは業務を兼ねて活動せざるをえず、その後、要員が参集しても業務が多忙で引継ぎが難しかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていくとともに、実効的な情報共有ができるよう、途中から参加する要員に対する情報共有方法を検討していく。
●途中から参集する要員に対する情報共有が不足しており、スムーズに機能班活動に入れない要員が散見された。	
●各要員の部署や機関の役割を把握できていなかったため、班員相互の連携が不十分だった。事前に機能班内の役割を決めておけば、混乱することはなくなるのではないか。	OFC参集要員は、事前に登録されているので、引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●要員参集時の受付について、名簿の横に到着時間の欄があると便利だと感じた。	泊原子力規制事務所と協議し、様式の改善等について検討する。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●参集した要員はネームプレートに名刺を入れて活動したが、名前が小さく見にくかった。	泊原子力規制事務所と協議し、今後の対応を検討する。
●放射線班の班員について、道庁から参集する要員以外に、もっと早くOFCに参集できる要員を配置すべき。	OFC参集要員や役割分担について、引き続き、関係機関と協議し、検討していく。
●OFCに道警の要員が参集するまでの間、OFC内に警察情報が共有されていなかった。	
●総括班の活動が会議の準備に終始してしまっていたので、他の活動も実施できるとさらに良かった。	より実効的な訓練になるよう、今後の訓練等において対応を検討する。
●住民安全班と実動対処班が連携して対応する状況が少なかった。	より実効的な訓練になるよう、意思決定訓練における状況付与等の充実について検討していく。
●テレビで情報収集できる体制が必要。	OFC 広報班で対応できるようにするなど、対応を検討する。
●会議資料の作成に多大な時間を要するので、事前に会議資料のひな形等を用意しておくべきではないか。なお、会議資料のひな形はできるだけ枚数を抑え、できる限り同じ体裁とすべき。	関係機関と協議し、会議資料のひな形を準備するなど、対応を検討していく。
●会議の発言について、漏れなく正確に伝えたいのはわかるが、共有すべきことを的確に伝えるという意識とすべきである。	研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●会議の資料について、OFC 各モニターでも映してほしかった。	より実効的な訓練になるよう、今後の訓練等において対応を検討する。
●町村連絡員が不在の場合、誰がその任務を担うのか整理してほしい。	連絡員が不在の場合は、原則、住民安全班に参集する町村からの派遣要員が、その任務を担うこととなる。
●役場からの情報などたくさんの情報が送られてくるので、フォルダ分けするなど整理の方法を検討すべきと感じた。	実効的な情報共有ができるよう、関係機関と調整し、検討するとともに、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●文房具類が足りない機能班があったので、補充しておくべきだと感じた。	OFCの活動に支障がないよう、適切に対応する。

### （3）災害対策本部等設置運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●原子力災害時と一般災害時ともに要員となっているため、複合災害時の対応を検討する必要がある。	複合災害時の対応について、各関係機関において事前に対応を検討しておく。
●自治体の災対本部の状況を OFC（道現地本部や町村副首長や連絡員など）に情報共有する仕組みが必要だと感じた。	連絡員等の連絡手段について、各町村において事前に検討しておく。
●自治体でも OFC 内の対応状況を把握出来た方がよいので、OFC で行われる会議については、TV 会議で傍聴できるようにしてほしい。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●ブラインド訓練の場合、自治体側でも状況把握、内部検討の時間が必要となるため、それらの時間も考慮した訓練スケジュールとなっているとありがたい。	

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●OFCと道庁が状況確認等を行うにあたって、現在はOFCの道現地本部を経由して行うことを基本としているが、当該業務を担うには、道現地本部の要員が不足している。	道現地本部への参集要員や役割分担について、引き続き、関係機関と協議し、検討していく。
●道現地本部が活動をするにあたり、コピー機やホワイトボードなどの備品が必要と感じた。	道現地本部の機能に合わせて備品についても検討していく。

#### （４）緊急時通信連絡訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○通信連絡訓練は毎月実施していることから、スムーズに対応出来た。今後は、毎月の通信連絡訓練の中でも複合災害を想定した通信連絡訓練等を実施しても良いのではないかと。	毎月実施している通信連絡訓練において、複合災害を想定した事態にも対応出来るよう関係機関と協議し、対応を検討していく。
●一部の町村からOFCに送付するFAXが届いていなかった（後日、ERCに送付されていたことが判明した。）。	FAX送信前の宛先確認や必要に応じて着信確認を行うよう周知する。

#### （５）緊急時環境放射線モニタリング訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○警戒事態で事業者の要員が参集しており、事業者の情報を素早く共有できるメリットがあった。	引き続き、実効的な体制となるよう、関係機関と協議し、対応を検討する。
●参集が少ない段階での対応方法について、簡素化するなどの検討が必要と感じた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて各要員の対応力の向上に努めていくとともに、効率的な作業となるよう検討していく。
●EMCからOFCや関係機関にスムーズに情報共有できるようにしてほしい。	効率的な情報共有が出来るよう、関係機関と協議するとともに、研修会や訓練等を通じて周知に努めていく。
●モニタリングの定時報の取りまとめに約30分要することがわかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上を図り、できる限り時間短縮に努める。
●町村の参集確認をする時間が遅れてしまった。	マニュアルの改訂を含め、対応を検討する。

#### （６）広報訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○OFCで実施した模擬記者会見の際、各班の担当者を同席させたことにより、最新状況等の説明が可能となったので良かった。	今回の取組を参考に、より実効的な会見になるよう、関係機関と協議し、今後の対応を検討していく。
●OFCプレスルームにパソコンとプロジェクターのケーブルを備えてほしい。	今後、関係機関と協議し、対応を検討していく。

## (7) その他訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○昨年度の訓練の際に避難退域時検査のゲート型モニターによる車両の指定箇所検査において生じた不具合（ケーブルカバーが滑りずれる不具合）について、防止策を試行し、問題がないことを確認した。	今回の防止策をゲート型モニターによる車両検査マニュアルに反映する。

### ◆平成31年度訓練に向けた検討項目◆

- 意思決定訓練（OFC、災害対策本部など）の充実
  - ・ 事態の推移に応じた防護措置の実施方針の作成手順の確認
  - ・ ブラインド方式によるOFC機能班の対応能力の向上
  - ・ よりの確な状況付与による意思決定訓練の充実
- EAL、OILに基づく防護措置に係る訓練の充実
  - ・ 自然災害との複合災害を想定した住民・要配慮者の避難訓練の継続
  - ・ さまざまな状況による孤立集落を想定した対応力の向上
  - ・ 小中学校の積極的な参加を促すなど訓練参加の促進
  - ・ 外国人観光客等の円滑な避難誘導
  - ・ 原子力防災に関する住民理解の促進に向けた取組の強化
- 原子力災害医療活動訓練の充実
  - ・ 避難退域時検査場所の円滑な運営
  - ・ 安定ヨウ素剤の速やかな配布
  - ・ 医療機関の連携強化
- 緊急時環境放射線モニタリング訓練の充実
  - ・ EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携



## 第4 要素訓練

### 1 通信連絡訓練

#### (1) 目的

原子力災害時の初期対応における通信連絡手順や応急活動を確認し、道及び関係町村担当者の対応能力の向上を図る。

#### (2) 内容

北海道地域防災計画（原子力防災計画編）等に基づき整備した通信連絡設備等を使用し、通信連絡に必要な機器の取扱いや情報の伝達手順などを確認。

#### (3) 参加機関 … <20>

泊原子力規制事務所、北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、岩内・寿都地方消防組合、羊蹄山ろく消防組合、北後志消防組合、北海道警察、北海道電力(株)

#### (4) 実施日 (11回)

平成30年4月13日、5月17日、6月14日、7月12日、8月9日、9月13日、10月15日、11月8日、12月13日、平成31年1月10日、3月7日

※平成30年8月9日は、札幌市、小樽市、島牧村、黒松内町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、洞爺湖町、豊浦町、長万部町、千歳市、伊達市、室蘭市、苫小牧市、登別市、壮瞥町、白老町、北広島市、江別市、むかわ町、安平町、厚真町も参加。

※平成30年8月9日は、要員派遣訓練（オフサイトセンター参集訓練）を実施。

※平成30年11月8日は、国（内閣府、原子力規制庁）との緊急時通信連絡訓練を実施。

### 2 原子力災害対策本部及びオフサイトセンター訓練（図上演習）

#### (1) 目的

関係自治体や防災関係機関の災害対策要員を対象に、オフサイトセンターの運用に関する知識・技術の習得・向上を図る。

#### (2) 内容

- ア 原子力災害対策指針や原子力災害対策マニュアル等の研修及び機器操作実習
- イ オフサイトセンター運営訓練（図上演習）

#### (3) 参加機関… <24> （参加人数 延べ144人）

経済産業省北海道経済産業局、海上保安庁第一管区海上保安本部、陸上自衛隊北部方面総監部、海上自衛隊余市防備隊、航空自衛隊第2航空団、泊原子力規制事務所、北海道、北海道警察、泊村、共和町、岩内町、寿都町、蘭越町、ニセコ町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、羊蹄山ろく消防組合、岩内・寿都地方消防組合、北後志消防組合、北海道電力(株)、東芝ITサービス(株)

#### (4) 実施日

実施日	実施内容
平成30年8月29日	原子力災害対策指針等の研修、機器操作実習
平成30年8月30日	オフサイトセンター運営訓練（図上演習）

※緊急時モニタリングセンター運営訓練と連携して実施

### 3 緊急時環境放射線モニタリング訓練

#### (1) 目的

道緊急時モニタリング班の要員を対象に、緊急時モニタリング活動を円滑に実施できるよう、知識の習得、技術の習熟、チームワークの形成を図る。

#### (2) 内容

- ア 要素別コース 緊急時モニタリングセンターの各班の業務及び資機材の取扱い等
- イ 総合コース 緊急時モニタリングセンターにおける総合的な緊急時モニタリング活動

#### (3) 参加機関… <15> (参加人数 延べ189人)

北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、北海道電力(株)

#### (4) 実施日

実施日	実施内容
① 平成30年8月2日 ② 平成30年8月3日 ③ 平成30年8月29日 ④ 平成30年8月30日 ⑤ 平成30年9月4日 ⑥ 平成30年9月27日	要素別コース ※ ①,②は原子力規制庁と共催 ※ ③,④はオフサイトセンター運営訓練と連携して実施
① 平成30年10月12日 ② 平成30年10月15日 ② 平成30年10月16日	総合コース

### 4 原子力災害医療研修会

#### (1) 目的

地域の原子力災害医療の実効性を確保し、原子力災害医療に関する知識及び技術の習得・向上を図る。

#### (2) 内容

- ア 医療機関の対応に係る基本的知識の習得と実践(実習)
- イ 被ばく傷病者等搬送に係る基本的知識の習得と実践(実習)
- ウ 避難圏域時検査・簡易除染に係る基本的知識の習得と実践(実習)
- エ 安定ヨウ素剤に係る基本的知識の習得と実践(演習)

#### (3) 参加機関… <22> (参加人数 延べ48人)

北海道大学病院、社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院、社会福祉法人北海道社会事業協会岩内病院、小樽市立病院、旭川医科大学病院、苫小牧市立病院、JA北海道厚生連倶知安厚生病院、医療法人社団健生会、寿都町立寿都診療所、医療法人社団白樺会白樺会内科クリニック、海上保安本部、札幌市消防局、岩内・寿都地方消防組合、羊蹄山ろく消防組合、赤井川村役場、古平町役場、余市町役場、仁木町役場、倶知安町役場、岩内町役場、蘭越町役場、北海道

#### (4) 実施日

実施日	実施内容
平成30年9月1日	医療機関の対応
平成30年9月1日	被ばく者等搬送
平成30年10月3日	避難圏域時検査・簡易除染
平成30年10月4日	安定ヨウ素剤の配布

## 5 その他研修

研修名	実施日	実施内容	対象者
原子力防災基礎研修	①平成30年5月29日 ②平成30年6月1日 ③平成30年6月12日	放射線の基礎、資機材の取扱い等	防災業務関係者
原子力災害対策要員研修	①平成30年6月19日 ②平成30年6月20日	原子力防災業務に必要となる住民防護等	防災業務関係者
放射線防護施設研修会	平成30年8月7日	放射線防護施設の運用等	施設関係者等
民間事業者研修会	①平成30年8月20日 ②平成30年8月21日 ③平成30年8月27日 ④平成30年12月20日	放射線の基礎、資機材の取扱い等	①トラック事業者 ②バス事業者 ③建設業関係者 ④社会福祉施設関係者
後志地域外国人観光客災害時対応研修	平成30年7月24日	原子力災害発生時における外国人観光客に対する対応等	ホテル事業者等
原子力施設における火災防護に関する研修	平成30年7月19日	原子力施設における火災防護等	関係自治体、関係消防、原子力事業者
原子力防災中核人材研修	①平成30年7月30日 ②平成30年11月15・16日 ③平成30年11月1日 ④平成31年2月13日 ⑤平成30年12月3日	①原子力防災セミナー ②災害対策本部中核要員研修 ③④避難区域時検査実施計画策定研修 ⑤バス避難等対応研修	道府県職員

## 6 地域学習会

対象住民の町村	実施日	実施内容	対象者
泊村	平成30年10月23日	原子力防災の基礎、村の避難計画等	総合訓練に参加した住民
共和町	平成30年7月13日	原子力防災の基礎、町の避難計画等	老人クラブ会員
二セコ町	平成31年1月26日	原子力防災の基礎、避難所運営ゲーム等	一般住民
倶知安町	平成30年8月28日	原子力防災の基礎、町の避難計画等	総合訓練に参加する町内会の住民
仁木町	①平成30年10月10日 ②平成30年10月11日 ③平成30年10月12日	原子力防災の基礎、町の避難計画等	総合訓練に参加予定の住民
赤井川村	平成30年10月12日	原子力防災の基礎、村の避難計画等	総合訓練に参加予定の住民